

1

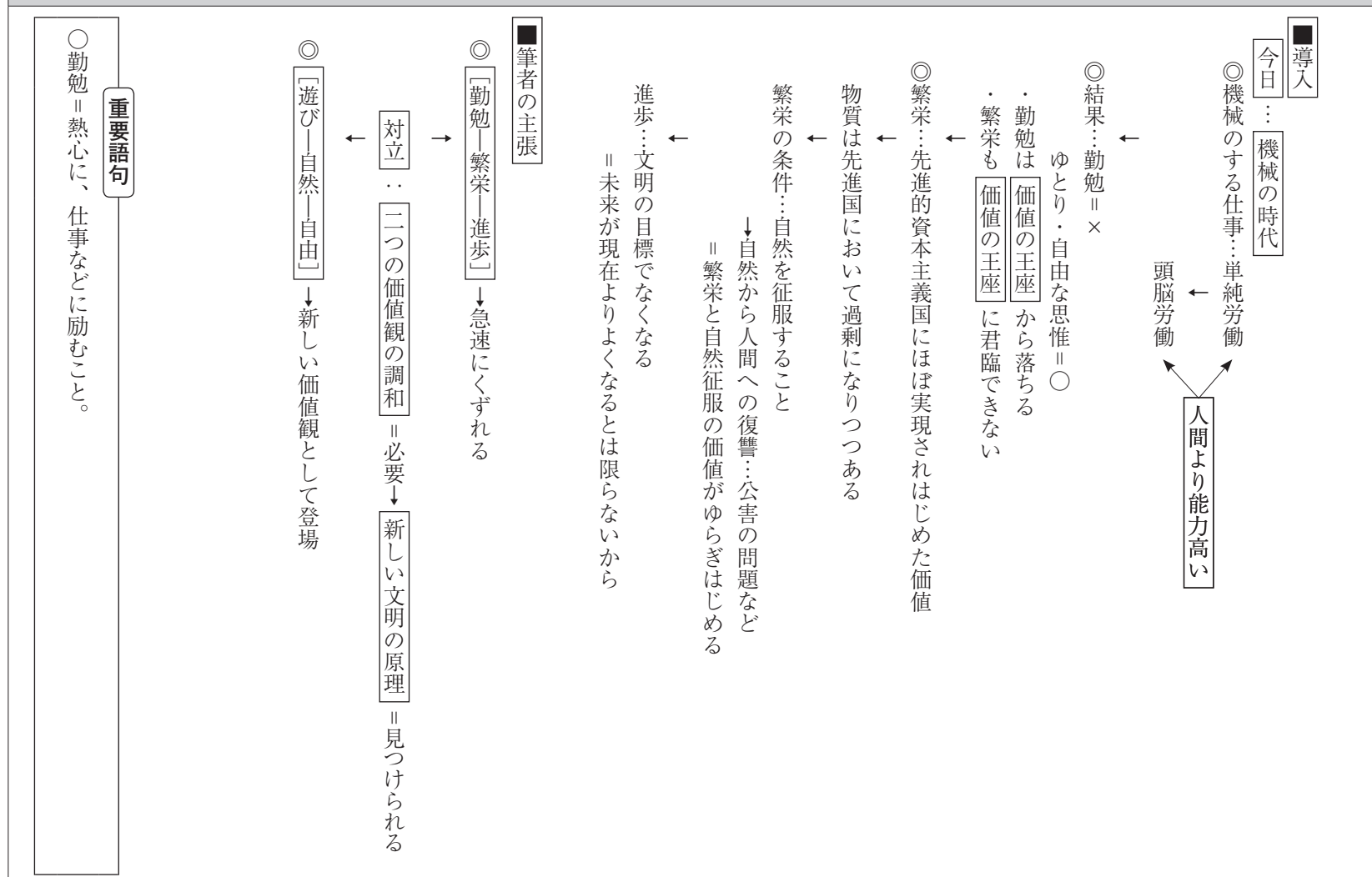
# 説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～5◆

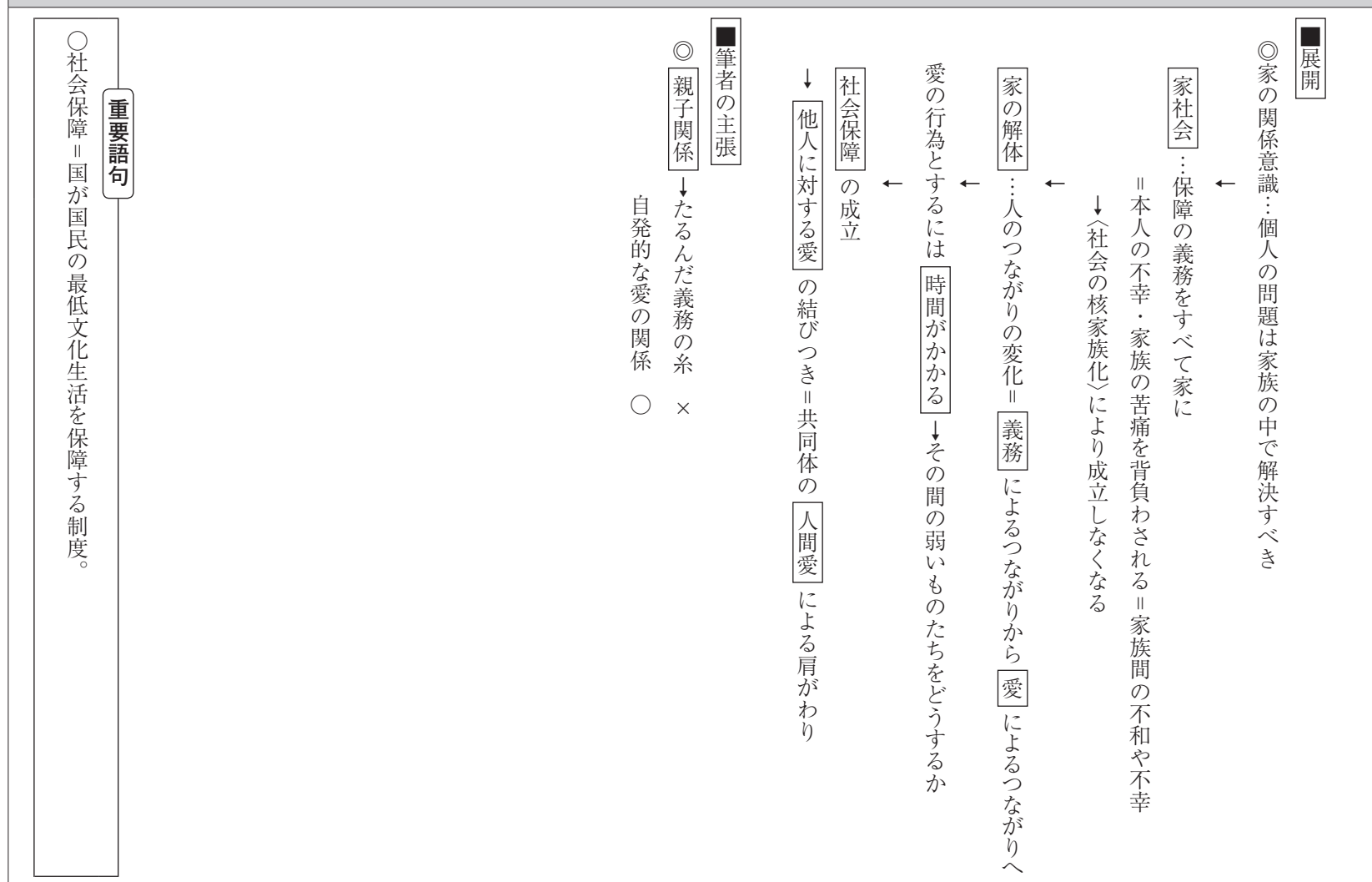
【指導のポイント】

説明的文章では、筆者が読み手に伝えたいことが要旨である。要旨をとらえるには、はじめに形式段落ごとの要点を理解することである。次に、形式段落ごとの要点をまとめて、意味上で形式段落ごとのまとまりをとらえて、文章の構成を把握することである。文章の構成を把握することで、筆者の意見や考えが述べられている箇所を理解し、その内容を読み取ることができる。

## 例題の板書例



## 演習問題の板書例



2

説明的文章(2)

◆指導ページ P.6～9◆

【指導のポイント】

説明的文章では、筆者の主張や考えが文章の最初に述べられている場合と最後の部分に述べられている場合、最初の部分で意見を明らかにしてあらためて最後の部分でも繰り返し述べられる場合の3つの文章構成のパターンがある。こうした型を意識することで、文章の要旨である筆者の主張や考えを正確に読み取ることができる。

例題の板書例

**展開**

1M:「もったいない」と思う精神  
 ↓ノーベル平和賞・ケニアの女性活動家ワンガリ・マータイが世界語にした  
 「もったいない」＝「勿体ない」「し」:物の本体を失する  
 ← 物を大事にする気持ちが残っている＝捨てるのは惜しい  
 ↓失っていくことへの哀切な感情も含まれている

**筆者の主張**

余分な物↓持たない  
 + ムダな消費↓しない  
 = 「もったいない」精神の持続

**重要語句**

○哀切＝非常に哀れでも悲しいこと。  
 ○毒される＝悪い影響をうけること。

演習問題の板書例

**導入**

日本人が乱発する言葉:「どうせ」＝「どの瀬」↓「どの瀬を渡っても」  
 「どっちみち」＝「どの道」↓「どの道を通っても」  
 ↓しよせんはうまくゆかない:否定的な語  
 断定的な気持ちまたは投げやりな気持ちを伴う

**問題提起**

あきらめの境地  
 ← あきらめがいい↓執念＝醜い  
 ・あきらめが悪い  
 ・窮地に立たない方法:手前で立ちどまる＝事態をはっきりさせない↓奥ゆかしい

**筆者の主張**

日本人:悲観的な心情↓現世は無常＝人生に限りがある  
 ↓ギリシア・インド:永遠↓希求  
 ← 永遠を欲しない↓この世が無常なのは明らか↓したばたしない＝安堵感  
 ← 無常な現実を直視する勇氣ない ↓あきらめ＝安堵

**重要語句**

○乱発＝法令や通貨などを、深く考えることもなく発行すること。  
 〓(この文章で使われている意味)言葉を、その本来の意味を深く考えることなく、安易に使うことを指している。  
 ○境地＝(この文章で使われている意味)心の状態のこと。

## 【指導のポイント】

詩歌の解釈や鑑賞をする上では、形式や表現技法について十分に理解しておく必要がある。特に、短歌の枕詞や、俳句の季語・切れ字などは詩歌を解釈する上で重要である。

## 例題の板書例

3	2	1
<p>(2)</p> <p>A 子供の歯が生えはじめたことを発見した親の感動がうたわれている。</p> <p>B 咳は冬の季語である。子供を相手する母親の視点から歌っている。</p> <p>C 赤蜻蛉は秋の季語である。</p> <p>D 一日の時刻の境目の様子を雄大な視点から歌っている。</p> <p>E 雪が解けるのは、春が訪れたことを表現している。</p>	<p>(2)</p> <p>A 「やわらかに」が芽と針の両方を修飾している。</p> <p>B 陶器の白と霧の立ち込める朝が、せいせいとした感じを読み手に抱かせる。</p> <p>C 山に吹く風の音の表現から推量できる。</p> <p>D さるすべりは、8月頃に赤い花をつける木である。夏の季語である。</p>	<p>(1)</p> <p>場面展開に注目する。子供がかけ回る様子を描いた部分と母親が追いつめた部分に区分できる。</p> <p>(2)</p> <p>子供がかけ回る部分における比喩表現に注目する。</p> <p>(3)</p> <p>「絶えた」とは「死んだ」を意味することから推量できる。</p> <p>(4)</p> <p>12行目に注目する。</p>

## 演習問題の板書例

3	2	1
<p>(5)</p> <p>B 「をりとり」は「折り取り」である。すすきを手で折ったという内容からアが適当である。</p> <p>D 「蝶」は春の季語である。</p> <p>A 「鳥わたる」は渡り鳥を指し、秋の季語である。</p>	<p>(3)</p> <p>聴覚とは耳の感覚である。音を表現した語に注目する。楽章とは曲の中で区分される部分のことである。第一楽章や第二楽章などと表される。</p> <p>(4)</p> <p>人ではない擬人法とは対象を人としとらえて表現する技法である。「大樹」とは大きな木であり、人のように考えたり思ったりしない。</p>	<p>(1)</p> <p>型にはめられていないことや、「けり」「うたへり」といった表現から判断できる。</p> <p>(2)</p> <p>学校から帰宅する子どもの様子を描いた部分と自分の子どもについて思う部分、再び子どもたちの様子を描いた部分に区分できる。</p> <p>(3)</p> <p>子どもたちが桃の花の色が反映していることが推量できる。</p> <p>(4)</p> <p>子どもたちが桃の木を折ることをしないことから推量できる。</p> <p>(5)</p> <p>5行目から8行目に着目する。</p>

4

小説文

◆指導ページ P.14～17◆

【指導のポイント】

小説文を扱った問題は、小説を部分抜粋したものを問題文とし、登場人物の心情や情景描写、表現の特徴を問う設問が多い。問題文に描かれている時、場所、事件、登場人物の気持ちの変化に着目して内容をとらえる必要がある。とりわけ、場面転換にもなって変化する中心的な登場人物の心の変化の理解を問われる設問が多くみられる。

例題の板書例

■人物の心情の変化

◎信男 疎開してきた子の幸治は飛び込みできないだろう

↓軽く見る

↓幸治に飛び込みを挑発

←

◎幸治 川に飛び込む

自信がない

↓勇気を出して飛び込む

↓川岸まで泳ぎつく

↓手をふる静子に知らんぷり

|| 自分にとってたいしたことではないと思われない

←

◎信男

幸治に白い小さな石を突き出す

↓幸治に勇気があることを認める

友達になりたい

重要語句

○疎開 || (この文章で使われている意味) || 太平洋戦争の終わり頃、都市部に暮らす

小学生が、空襲の被害から逃れるために農村部に避難することを指す。

演習問題の板書例

■展開

◎早川 声をかけてくる

ボク 話しかけられたことがないので緊張

←

◎早川 興味津々でボクの弟・柳戸凌のことを尋ねる

ボク 無視することができず早川に愛想笑い ↓自分の心が弱い

←

◎早川・田中 ボクの弟の話で興奮気味

ボク 弟のことは初めて聞くこと ↓早川・田中の勢いに対してひるむ

←

◎早川・田中 ボクの答えにがっかり ↓ボクが弟について知らないことに納得

重要語句

○露骨 || 気持・意図などを、相手のおもわくを気にせず、そのまま外にはっきり表すこと。

【指導のポイント】

随筆では、筆者が自分の体験や見聞によって感じたことや自分の主張を書き表している。随筆の要旨を読み取る上で大切なことは、筆者の体験した事実なのか、筆者の感想や意見なのかを明らかに区別することである。さらに、随筆では筆者の独特の表現技法や文章構成にも注意する必要がある。

例題の板書例

■展開

◎私：旅ではタクシーを使う

木曾の旅↓

タクシー運転手が若い

↓

頼りない

〈若い運転手の話〉

◎先輩の発言↓自動車の走る道ばかりが道だと思っ  
てはものにならない

←

◎旧道を歩いた↓昔の人の旅への思いは悠長↓旅の安全への深い考えを知る

←

◎人間の足の馬力はきまっている

←

◎若い運転手の鮮やかな一言〓年齢の若い人らしい

+

おもしろい表現

↓若い運転手はものになると期待

重要語句

○馬力〓ものを動かす動力を表す単位。

○ものになる〓この文章で使われている意味(才能や能力が発揮されて相応の人物になること)。

演習問題の板書例

■話題

江戸時代の人々にとっての富士山について

■展開

◎江戸の頃：富士山は今よりはるかに身近な、大きな存在

↓太田道灌の歌

・補庵景三の詩

←

◎今日と違い、江戸の人々は毎日のように富士の姿を眼にしていた

↓絶好のランドマーク

・都市計画の基準点：富士見町、駿河台など

←

◎富士：神州第一の霊峰〓神の宿るところ〓人々の信仰対象

↓江戸の町は富士山に向かって開かれていた

・富士講により町中に富士塚

←

◎今日でも富士を望み見ることはできるが、その姿は遠く、小さい

↓江戸人の眼と心を失ってしまった

〓眼：富士を近くから仰ぎ見る眼

心：神の宿る山としての富士への信仰と憧れの心

重要語句

○秀丽〓他よりすぐれていてすっきりと美しいこと。

○隆盛〓栄えて盛んなこと

【指導のポイント】

古文・漢文では、歴史的仮名遣いや書き下し文などの独特の表現に慣れ、内容の概略をとらえることが大切である。次に省略されている主語を補い、さらに正確に内容を読み取る。また、古文では係り結びなどの独特の表現技法を理解したり、漢文では漢詩の形式や表現技法について理解したりすることも必要である。

例題の板書例

**1**

■場所 比叡山

■展開

僧たち 夜中にぼた餅を作ろうとする

←

僧たち ぼた餅ができるのを待って寝ないのもよくないので

←

僧たち ぼた餅ができたので児を起こそうとする

←

僧たち ぼた餅ができるのを待っていたと思われたくないので

←

僧たち 児が起きないので寝かしたままにしよう

←

僧たち ぼた餅を食べ始める

←

僧たち 寝たふりをしながらもう一度声をかけてくれないものかと思う

←

僧たち たまりかねて返事

←

僧たち 大笑い

**2**

(1) 一句が五字で四句からなるので、五言絶句。

(2) 「一・二点」に注意して読み下していく。

(3) 人の往来が途絶えて、足跡も見えないという内容から判断して、承句が適当である。

(4) 絶句の内容は、雪の降る時に、川で一人で釣りをすることを描いている。

演習問題の板書例

**1**

式部省の役人大江匡衡の息子の権官・孝周が重病

・母：赤染右衛門

↓ 息子は病気が治る

↓ 息子の命を引き換えに息子の命を助けてほしい

・息子：孝周

母の身代わりの願いを嘆く

↓ 母を失うのなら病気が治っても生きていく励みがない

住吉神社にお参り ↓ 自分の命を取り上げて母の命を助けてほしい

←

母子は共に無事

**2**

機：優れた犬を飼う

◎洛陽(＝仮住まい)にいるとき、家からの便りがなく

機：(冗談で)犬に話しかける

↓ 家に便りを届けて、家から返事をもらってこられるか

犬：しっぽを振りながら鳴く

機：竹筒に手紙を入れて、犬に持たせる

犬：(家に便りを届け、家から返事をもらってくる)

**3**

管仲：冬の道に迷う ↓ 老馬の知恵を用いて道を知る

隰朋：山中で水が無くなる ↓ 蟻の巣の近くに水がある知識から水を手に入れる

←

管仲・隰朋：わからないこと ↓ 老馬・蟻を師とすることもためらわない

←

☆ 今の人々：優れた人の教えや知恵に学ぼうともしない ↓ 大変 愚かである